

砂浜の四月はぼやけた光の巢 貝殻のふりをするのはさくら

いいかげんあなたのセーター捨てますね 地獄にも海がありますように

思っていないことばかり語る昼がありアクリル絵の具の白色の味

ストローの噛まれてくたりと頭垂れ 手懐けられる感傷を飼う

文旦の赤道を刃でなぞる時やわらかいものに気圧されている

コンクリにぼてり解けた白樺 あまり日持ちはないかなしみ

君の書く物語すべて本にして燃やしてあげたい 今日 快晴

なみぬいの息継ぎのところが短くてどちらが表か分からなくなる

日記にも知られたくない一日を空白として書き留めておく

吐くときに辛くないよう柔らかいものばかり選び食べている

結末が思い出せない漫画にも選ばれなかった終わりがあつて

汚くも暗くも狭くもない部屋で火を見るためにライターを買う

ゆるせないことの数だけパンを焼く 東京なんてただの街、街

地獄にも海がありますように

水面